

(清須市)

市町村の 基本情報	学校数	小学校 8 校、中学校 4 校、特別支援学校 0 校		
	地域学校協働活動推進員等の配置状況	統括的な地域学校協働活動推進員	1 人	
		地域学校協働活動推進員	23 人	
		統括コーディネーター	0 人	
		地域コーディネーター	0 人	
	CS 及び地域学校協働本部設置状況	CS を導入している学校数	小 8 校	中 4 校
地域学校協働本部がカバーしている学校数		小 8 校	中 4 校	



(活動の実際)

桃栄小学校での取組 『忘れない東海豪雨』紙芝居の実演

(目的)

- ・清須市で起きた過去の災害について知り、防災への意識を高める。
- ・災害当時の様子について、地域の方から語り継がれることによって、地域の安全を守るために尽力している方々の存在を知り、自分たちにできることについて考える。

(活動内容)

8年前に制作された「忘れない東海豪雨！」の紙芝居を、桃栄小学校全児童を対象に、学校支援ボランティアを中心に実演する。

実演について、統括的な地域学校協働活動推進員が総指揮をとり、桃栄小学校担当の地域学校協働活動推進員2名が、「学校支援ボランティア」を募った。他の小中学校担当の地域学校協働活動推進員も、応援にかけつけ、清須市地域学校協働本部の大きな柱となっている『東海豪雨を語り継ぐ』ことの一役を担った。

(活動で意識していること)

- ・23年前の出来事を語り継ぐだけでなく、鑑賞した児童たちが、自分事として防災を考えることのできるようなアプローチをする。
- ・体育館でのイベントになることから、できるだけ短時間で準備をすることで、学校の授業時間への支障をなくす。また、準備から片づけに至るまで、教職員の手を煩わすことなく、全て学校支援ボランティアが行う。
- ・学校支援ボランティアには、若い世代(20才代)を巻き込む。

(◎成果と●課題)

◎児童たちに、東海豪雨の怖さを伝え、実際「水害」が起きたらどうするかを考えるよい機会を提供できた。

◎大学生の学校支援ボランティアが育ち、この活動を引っ張ってくれた。

●大型紙芝居は、地域の方が、ボランティアで作製してくださり、手作りであるため、耐用年数が短い。

●生ピアノ演奏にこだわっているが、現在演奏者が1名しかおらず、現在は、仕事を休んでかけつけてくれているが、将来的には難しくなってくる。

(関係者の声)

- ・「東海豪雨紙芝居」は、毎年観ているのだが、観るたびに新しい発見があり、子供たちの防災意識の高まりを感じる。(教育委員会)
- ・地域では、子供たちに伝えていきたいと感じてはいるが、どのようにすればよいのか分からなかった。紙芝居という手法は、すばらしかった。(地域の方)
- ・「東海豪雨」や「水害」のことを学ぶよい機会となった。今後、どのように避難したらよいのか、ハザードマップを家族と見直したい。(学校支援ボランティア)
- ・初めての「東海豪雨紙芝居」を観て、僕も語り継いでいきたいと思った。(6年生児童)